

支部だより

令和6年 春季審査会 (少年Ⅱ部/一般部)

※ 少年Ⅰ部の写真は別のページに掲載



42-01



42-02

ご挨拶

暑い日が続いていますが、支部内の各道場では、相変わらず熱気のある稽古が続けられています。現在では、支部内で唯一エアコンのない追浜クラスでも、連日30度を超える暑さの中で、幼年部から一般部まで、とても充実した稽古が続けられています。

今年の暑さは気象庁なども警戒しており、「なるべく運動を避けて涼しいところでお過ごしください。」この注意喚起がなされていますが、可能な限り体を鍛えて抵抗力を付けることも身を守るすべであるとの考えのもと、上下の道着に身を包み、皆当たり前に稽古を続けています。こうした方々は、いざという時には自分の身ばかりではなく、周りの方々を助け、体力のない方々の支援に貢献できる体力と気力を養っている方々であり、日々の稽古自体が、世に貢献ができる人材育成に繋がっていると私は考えています。

しかしこれだけ暑くなると、暑さに耐えられなくなる方が増えてくることで、心の中に不満やイライラを募らせる方が多くなるように、あちらこちらで色々な問題を見聞きすることも多くなってくるようです。そうであることも、今の社会情勢には不安定要素がごまんとあふれています。戦争や紛争は止まず、未知のウイルスが世に蔓延し、インターネットやAIなども含めたIT技術の発展に伴い、人が身に付けた技術力やその知力、力

を持つ方々の政治力や権力、人が持つ能力が道徳的に考えて、どうにも納得がいかない用いられ方をされるのが多く見受けられます。高度に磨き上げられた様々な技術力や、とても複雑に絡み合った経済、法律などのルールや社会規範など、世の中が複雑になればなるほど、その網の目を縫って、自分だけうまい汁を吸おうという、欲に目がくらんだ悪意の心が、高度の知識を持つ方や、社会的に高い地位を持つ方々の心に宿ると、世の中の多くの人々の苦しみが増すばかりです。

我が道場の中では、道場内のルールに関しては、あまり細かい取り決めを書面にしたためではありません。ルールで人々を縛るのではなく、指導者自身の日々の行動で、一定の拘束力を持つ、一つの規範を築き上げていきたい。物事の良しあし、人としての正しい行い、より良い生き方というものを、昔の日本人は、宗教に頼りすぎることなく、人の背中を見て学んできたものです。「無宗教です。特定の宗教には属していません。」と考える日本人は多いと思います。「私の宗教は何々です」というものを持つていない日本人も多いと思いますが、そうした皆さんが伝統的に持つ、日本人共通の優しさと思いやりの心は、正に日本の魂です。細かいルールではなく、心をもって、子供たちの心をはぐくんできたいと考えています。

支部長 森直樹

目次:

ご挨拶	1
行事報告	2~3
キッズ&ジュニア 少年部塾生だより	4~6
こどものコーナー	7
キッズ&ジュニア 優良出席者	8
保護者レポート	9~12
栄養 コラム	13
高校生・一般部 塾生だより	14~15
大会・記念行事 行事レポート	16
写真 (活動の様子)	17
活動状況	18~19
一般部昇段レポート 行事レポート	20
継続の礎	21
お知らせ	22
編集後記・コラム	

寄稿者:

「塾生便り」(少年部)

松本大吾 日高雅姫
五十嵐大智 大西寿咲
重藤 蒼

「保護者レポート」

早瀬様 田村様

「塾生便り」(一般部)

鈴木賀久 長島貴弘
菊池慶太

「昇段レポート」

柳 春逢 小池秀人

「継続の礎」

古池信夫